



4月から半年が経過し、果たしてセンター設置の効果は現れているのでしょうか。以下にご報告したいと思います。

工学部では2004年4月から学習支援センターを3号館2階に設置しました。工学部基礎科目である数学と物理を中心として学習相談、補習授業など、学生の皆さんの支援を行っています。登録や予約などはまったく不要で、本学の学生であれば誰でも利用できます。自習室としての利用も可能です。



スタッフとプログラム

若い専任嘱託教員として数学担当・小林俊公(としまさ)、物理(化学)担当・平田滋(めぐみ)が常時待機し、数学非常勤講師2人、大学院生アルバイト数名。これに加えて数学物理学教室を中心として工学部の教員が随時応援しています。学習相談は月～金曜日が12:10～19:00、土曜日が12:00～14:00。数学や物理の他、専門科目の質問にも応じています。月～金曜日の5～6時限には数学と物理の補習授業を行っています。補習授業のスケジュールに関しては毎週(1)発行の「センター通信」で連絡していますが、これには毎回担当教員からの短いメッセージが添えられています。例えば、次のような感じです。

「筆跡心理学というものをご存じでしょうか。筆跡から性格を分析する学問で、フランスでは多くの企業が筆跡を採用や人事の参考に使っているそうです。筆跡には書き手の現在の姿、性格が反映されており、人間像を推定することが

できると考えられているわけです。そこで提案をひとつ。今までに書きためてきた授業のノートを見直してみませんか。きっと、筆跡が変化していることに気がつくと思います。それは人間としての成長の証しなのかもしれません。

(センター通信・数学 2004.11.15号)

「号外から約2ヶ月。後期の開始とともに、ようやく?!センター通信も復活です。支援センターでは、前期と同様に学習相談と補習授業を行いますので、どなたでも気軽に利用して下さい。特に補習授業ですが、前期に受講していない方でもOKです。“高等学校の物理をやったかなあ”と思っただけで参加してください。それから先日、公務員試験を受けるという学生さんが“専門科目に物理があるから高等学校の内容を勉強せなあかん”と言っていました。就職試験などで物理や化学が必要な方も大歓迎ですよ!

(センター通信・物理 2004.9.21号)

ビデオ教材の作成

支援センターでは日常の業務と並行して夏休みなどを利用して種々の教材を作成しています。例えば数学や物理を理解する上でのちょっとしたコツなどを10分前後のビデオに撮影した「One-pointアドバイス」シリーズ。これは支援センターのホームページを通じて全国どこからでも見ることができます。「いつでもどこでも何度でも」勉強できることが特徴です。

また、1つ1つが短いので気軽にみるができます。まだ本数は少なく、十分整備されているとは言えない状態ですが、ぜひ一度センターのWEBサイトをのぞいてみてください。

学習相談や補習授業の風景を収めたショートビデオもご覧になれます。



<http://sprite.eng-scl.setsunan.ac.jp/>

利用状況

支援センターでは学生ひとりひとりの利用記録票(質問内容などを記録した個人別カルテ)を作成しています。これによると、2004年度の工学部1年生445名中、週1回以上利用した人(ほとんど毎日のように来ている学生もいます。)11%、2週間に1回程度12%、前期の間に数回程度28%の学生がセンターを利用しており、延べ人数では1,000人を超えています。特に中間試験や期末試験の直前に利用者が多くなるようです。前期末に工学部で統一試験が実施された1年次科目の「微積分I」と「基礎数学」では、週に1回以上センターを利用した学生の合格率はそれぞれ82%および95%となり、工学部平均(73%および86%)をはっきり上回る成績でした。詳細なデータについては割愛しますが、センターを利用して学習した学生の成果は着実に上がっているようです。2～4年次の学生については通常の学習相談の他、公務員試験や大学院入学試験の対策として利用する学生もいました。その他、実験のレポート作成など自習室としての利用も結構ありました。数学や物理以外の科目でも相談すればスタッフが一緒になって考えてくれる、あるいは一緒になって専門の教員に質問してもらえるという環境(雰囲気)が学生を引きつけているのかもしれません。